

YMCA News

10



「福島スタディーツアーに参加して」



昨年の福島スタディーツアー報告書を見て、同世代のユース達が災害とその現状に深く関心を持ち、自ら行動して、自分なりに考えていることに、私は大きな刺激を受けた。そして、今年はとちぎが初参加することになったと聞いて、私は迷わず参加を決めた。

しかし、私は震災と福島に関する知識が全くなかった。分かったつもりでいた、というのが正しい表現かもしれない。放射線がどのくらいの基準で危険とされているかは分からず、どの地域が帰宅困難区域とされているのかも、常磐線が北は富岡までしか行かないからそのへんだらう、という曖昧な考えだった。道路沿いの至る所に設置されていた放射線量計、無数に積み上げられた黒いトン袋、草が伸びきっていて静かな帰宅困難区域。私は、ツアー中の移動する車の中ではじめて見る被災地の景色を前に愕然とした。

ただ、驚いたこともあった。それは現地の人々の生きる強さである。「小高ぶらっとほーむ」の廣畑さんは、「被災地は福島だけではなく。津波が来てもこなくとも、地震があっても

なくても、3.11で少しでも困難な思いをされたら、あなたは被災者でそこは被災地なのです。お互いここまでよく無事でいられたね。」と優しく声をかけてくれた。また、「この福島の現状を変えていかなきゃいけない。もう二度と同じことを起こさない社会を作らなくてはいけない。」と強い想いで訴える「希望の牧場」の吉沢さん。

そして、興味が湧くお話をたくさん聞かせて頂き、帰り際には「また遊びにきなさい。」と声をかけて下さった宿泊先の勝緑寺・湯澤住職。そこで出会った福島の方々はとても元気で、明るかった。そして、想いも私の想像とはまったく違っていった。

今回、このように実際に足を運ばなければ、そこで暮らしている人の声も聞けなかったし、こんなに考えることも無かった。

自分にできることは何なのか、まだはっきりとは分からないが、現状を多くの人に伝えていきたいと強く思った。

とちぎYMCAボランティアリーダー
菅原 伶(じ〜こリーダー)

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

第3回 盛岡YMCAインターナショナルチャリティーラン2019 報告

17 ハートナッシュで
目標を達成しよう



9月23日(祝)岩手県立大学を会場に、第3回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン2019が行われました。

当日は、台風接近に伴う荒天のため、体育館での開催となりました。荒天にもかかわらず、23チーム154名の参加をいただき、ボランティア他来場いただいた方を含めると、約300名が集う時間となりました。

ボランティアリーダーが考えた、「人生山あり、谷あり、チャッピーあり!!チャリティーすごろく!!」を通して、老若男女、ハンデのある方もない方も一緒に、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

また、これまでとは違う形での開催となりましたが、外でランを行うのとはまた別に、チャリティーランの場に集う方々が、交流することの出来る時間となり、今後の盛岡YMCAのチャリティーランイベントに繋がる、よいきっかけとなったと感じています。

そして、YMCAに日頃から集い活動を支えている、ボランティアリーダーが、ゲームの企画立案、運営、全体進行などを担い、素敵な時間を作り上げてくれました。

当日ご参加、ご来場、お手伝いいただいた方々だけでなく、ご協賛をいただきました多くの企業、ご寄付をいただきました多くの方々、チャリティーラン実行委員会の皆様など、チャリティーランの主旨にご賛同いただき、支えてくださった多くの皆様に、感謝申し上げます。

盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン担当
浅沼 慧



中高生キャンプ活動報告



9月7日～8日の1泊2日で、中高生キャンプを行いました。会場は盛岡市内にある『都南つどの森』。参加者は中学生3名、高校生1名の計4名となりました。

集合当初は緊張している様子が見られましたが、皆でゲームをしたり、キャンプ中の役割決め、ご飯決めの話し合いをしたりと、時間を共にする中で、少しずつ一人ひとりが持つ個性や面白さが見え始め、自然と交流し笑い合う姿が増えていきました。

キャンプ場に到着してからは、自分たちが寝泊りするテント設営、夕食調理を行いました。夕食調理の際には、それぞれが積極的に参加し、自分の仕事を全うして、出来上がった夕ご飯は皆大満足のものとなりました。夜は皆で輪になって集まり、就寝時間まで話をしたり、遊んだりして盛り上がっていました。

2日目になると、皆で何かすることが自然と『当たり前』になっていて、最後のフリータイムでは、自然と全員でかくれんぼをする流れとなり、皆で本気のかくれんぼを満喫しました。かくれんぼの最中、隠れる方はもちろん、鬼側もとても生き生きと、楽しそうにやっていたのが非常に印象的で、全員が見つかった後で、隠れた場所についての話や、早い段階で全員が見つかった際の、鬼の誇らしげな早見つけ理論にみんなで大笑いしていました。

今回のキャンプでは、一人ひとりが自由に過ごす中で、他者のために自分はこの役割を担おう、という思いが段々に強く表れてきていたと感じています。その事が、自然とみんなで何かをすることが『当たり前』という空気を生んだのではないかと思います。

この2日間、私は参加メンバーの面白い所、優しい所、しょうがないなあという所、尊敬できる所等を沢山発見出来ました。



参加したメンバー1人ひとりにとっても、キャンプを通して沢山の発見と、一人でも多くの仲間との出会いが生まれていれば幸いです。

中高生キャンプ
ディレクター 小川嘉文

「ちきゅうとあそぼう。」 タイム・スリップキャンプ報告



こんにちは!私から、9月14日から9月16日に行われたタイムスリップキャンプについて、報告させていただきます。

キャンプは、岩手県一戸町御所野校門公園で行われました。リーダー11人、子ども25人の計36人でのキャンプでした。中には、初めてキャンプに参加してくれる子どももいました。今回のキャンプは、リーダーにとっても、普段来ている子どもにとっても、初めての体験が溢れるキャンプでした。

例えば、1日目に行った、土器を使っの咖喱作り。子ども達は、傷つけないように、見たことの無いくらい集中した様子で土器を運んだり、レンガでのかまど作り。かまど作りでは、空気の通り道が出来ず、火がすぐ消えてしまうなんてことも。

そして、初めて土器を使っの咖喱作り。水が見えないため、どんどん水をつぎ足してしまい、スープ咖喱になっているグループもありました。しかし、そんな失敗をしたからこそ、できた事も沢山ありました。リーダーと、子どもがもっと深く関わったり、子ども達同士で意見を素直に言えたり、成功したときの達成感を、より強く感じる事も出来ました。

また、竪穴式住居に泊まることも初めての体験でした。普段と違い、豆電球も無ければ、ベッドも、布団ありません。ブルーシートの上に毛布を敷き、寝袋に入った状態で、みんなで身を寄せ合い寝ました。

このような私が子どもだったら不安で泣いちゃいそうな体験も、仲良くなった友達、リーダーがいたからこそ、子ども達は、安心した様子でぐっすり寝る事が出来ていました。

こういった初めての体験を、普段会わない友達やリーダーと一緒にするからこそ、良い経験になるんだと思います。

このような貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございました!



岩手大学3年
宮澤秋彦(シュリンプリーダー)

ぐんまYMCAキャンプ 参加報告



ぐんまYMCAの「ぐるりんキャンプ」参加させていただきましたサスケです!8月9日から8月15日まで、群馬県赤城キャンプ場にて生活をし、他県のリーダーと交流を深め、8月11日から8月14日には同所にてキャンプを行ってきました。

今回、滞在させていただいた“ぐんまYMCA赤城キャンプ場”は、1964年に開所されYMCAのスタッフ・リーダーたちが整備してきたキャンプ場です。滞在1日目・2日目は、「駐在さん」としての活動を体験しました。「駐在さん」とは、キャンプ場の管理人という役割に加えて、YMCAの施設でありYMCAのキャンプが行われるからこそできる、キャンプに参加している子どもたちや、リーダーと関われるお仕事です。駐在の仕事としては、朝はヤギの親子の世話、コンポスト(生ゴミなどを自然の中で分解発酵させた堆肥)づくり、キャンプ場の掃除から始まります。日中は、滞在中のキャンパーのサポート、キャンプ場の修繕を行います。夜は、次の日の予定をキャンパーのスタッフ・リーダーたちと共有し、必要なものがあれば準備するという流れで一日を過ごしました。

滞在3日目からは、「ぐるりんキャンプ」という、年少～小学校3年生までを対象としたキャンプに参加しました。赤城キャンプ場は、山に囲まれ自然を堪能できるキャンプ場であり、子どもたちと虫を捕まえるべく草むらを取り回り、疲れたならばヤギに草を取ってあげながら休憩、というように自然の中で一日を過ごしました。暑さをしのぐプールも自然の中に作ってあり、ただひたすら土を掘って水を溜めた、ぐんまYMCAのリーダーたちの汗の結晶「泥プール」など、自然を満喫して楽しめるキャンプでした。

普段は体験することのない、キャンプを支える側の仕事をし、キャンプに参加させていただきながら、今まで知らなかったプログラムの内容や進め方を学ぶなど、貴重な時間をいただきました。この体験を、これからの活動に繋げていきます。

岩手大学2年 佐藤大(サスケリーダー)

アジア太平洋YMCA大会 参加報告



こんにちは!レモンです。8月31日(土)～9月2日(月)の第4回ユース・アッセンブリー、9月2日(月)～6日(金)の第20回アジア・太平洋YMCA大会に参加してきました。今大会には、20を超える国や地域から377名が、国際青少年センター東山荘へと集まりました。

ユース・アッセンブリーでは、ユース達が集まり各地域のYMCAでどんな活動をしているか、「平和」とはどんな状態のことをいうのか。また、ユースが直面する社会問題とは何か共有した後に、各YMCAで出来ることは何かをディスカッションしました。私が考えるよりも若者の抱える問題というものは深刻で、一例として、ミャンマーのある地域では10人のうちの7人の若者は、薬物に走ってしまうと教えてもらいました。それぞれのYMCAでどんなことを行っているのか、何を思っているのかを肌で感じる事ができました。

続いてアジア・太平洋YMCA大会では、「自然恵みに抱かれ、平和に向かって共に生きる」を元に、互いの違いを理解し歩み寄りながら、YMCAのこれからについての講演や、話し合いを行いました。核保有の危機に関する講演を聞いてから、大会参加者やユースを交え、国や年齢さまざまな人達で話し合いをしました。ワークショップでは、各トピックに分かれてセッションをしました。最後には、次の大会に向けてさらに「平和」へ向かっていくことを約束し大会が終わりました。

私は英語があまり得意ではありませんでしたが、そんな私にも分かりやすい英語を使って、ゆっくり何度も話しかけてくれるユースの人達に、たくさん助けられました。また、どのYMCAも今の社会に対して関心を持ち、何ができるか、個人としても出来る事が何か真剣に考え、相手を受け入れながらも、自分をぶつけていく姿を見て、人との違いに偏見を持たず、私も困っている人に手をさしのべて、人とのつながりを大切にしたい。今後には生かし、ここでの経験を伝えていきたいです。参加させていただきました、ありがとうございました!

岩手大学3年 安恒史織(レモン)

リーダーズフォーラム 参加報告



こんにちは!じーこです。9月6日から9月8日まで、東京YMCA山中湖センターで行われた、第32回ユースボランティアリーダーズフォーラムに参加してきましたので、報告させていただきます。

ユースボランティアリーダーズフォーラムでは、東日本の各YMCAから、経験1～2年目のリーダーが集まり、基調講演で学んだことをもとに、3日間通して本フォーラムのテーマでもある「今、ユースボランティアリーダーに求められているもの」についてグループごとで考え、話し合いました。また、ビックカヌーやキャンプファイヤーなど、さまざまな活動もさせていただきました。

私自身、盛岡YMCA以外のリーダーと関わる機会は初めてでしたので、楽しみでもありつつ緊張もしていました。ですが、当日はグループメンバー同士すぐに打ち解けることができ、YMCAのリーダーの力を感じました。

本フォーラムではいろんなリーダーと関わる事ができ、とても刺激を受けました。各YMCAのリーダーとの交流を通して、今まで自分が、盛岡YMCAとして活動してきた当たり前だと思っていたことが実は当たり前ではなかったり、その逆もあったり、いろんな発見があって、自分の視野を広めることができた3日間でした。

また、「今、ユースボランティアリーダーに求められているもの」について、グループメンバーと話し合い、その中で今までの活動を通して自分の感じていることや、講演を聴いて考えたことなど、様々な意見交換が行われました。そこでは、他のリーダーの考えや価値観に触れることができたのと同時に、今までの自分の活動を振り返り、自分と向き合う時間にもなりました。これから自分は子どもたちに何ができるのか、そのためには何をすべきなのかなど深く考えることができ、濃密な時間となりました。

今回学んだことを今後の活動に生かし、子どもたちに還元できるよう、頑張っていきたいと思っています。参加させていただきありがとうございました。

岩手県立大学2年 石川万里子(じーこリーダー)

福島スタディーツアー 参加報告



ふくしまスタディーツアーに参加した、盛岡YMCAのリーダー1年目のおびです。

今回のふくしまスタディーツアーでは、とちぎYMCAのリーダー達とともに、福島震災当時の様子から、現在の様子までを知ることができました。

1日目のガイドさんによるツアーでは、鹿島区や原町区などの現在の様子を見ることや、震災当時の様子、復興状況について学ぶことができました。ガイドツアーでは、震災から8年たった今でも仮設住宅が残っていること、帰還困難区域でのフェンスに囲まれた家々が印象的でした。また、至るところに置いてある、大量の汚染土が入っている黒いトン袋が不気味で恐怖を感じました。

2日目の、小高ぶらっとほーむの廣畑さんのお話では、震災当時は町から音そして色が消えていき、まるで白黒写真のようであったという言葉が、特に印象に残りました。さらに、復興に向けたトウガラシプロジェクトでは、町ぐるみのコミュニケーションが活気を生み、町が明るくなってきていると話す廣畑さんの嬉しそうな笑顔が心に残りました。

最後に訪れた希望の牧場では、放射能汚染により殺処分されるはずだった牛たちの命を救った、吉沢さんからお話を聞くことができました。

その中で吉沢さんの原発ゼロに向けた熱い想いや、当時の牧場の写真やその時の様子から、原発事故がいかに悲惨で取り返しのつかないことなのかを改めて感じました。

今回のふくしまスタディーツアーを通して私は、家族や友人に囲まれ、毎日帰る家がある何不自由ない生活が、どんなに幸せなことか考えさせられました。また、原発というものはそこにある命、生活、幸せを全て奪うものであり、私も原発ゼロに向けて、何かできることはないか考えるきっかけとなりました。

今回お世話になった福島の皆さん、とちぎYMCA、盛岡YMCAの皆さん本当にありがとうございました。



岩手県立大学1年

十文字堅斗(おびリーダー)

「スペクトラム」

10年前は、サッカースクールの現場に顔を出す機会がけっこうあった。何故か盛岡YMCAのサッカースクールは、少々の雨でもグランド条件が許す限り開講している。洗濯する保護者の皆さんには申し訳ないが嬉々としてやってくる子どもたちの顔を見ているうちにそうだった。雨に濡れながらサッカーをしていると、いつの間に止んで日光が刺してくる経験を何度もした。とりわけ前潟や篠木の活動場所からは、盛岡市内や、南昌山の方角に見事な虹がかかるのが見える。

虹は赤から紫までの光のスペクトルが並んだアーチ状の光だが、実際にはひとつひとつの色の境はあいまいだ。注意して見るとこういうことは身の回りの生活によくある。例えば街灯の明かりは離れてみると明暗がはっきりしているが、いざ、その下に立ってみると、ボーヤとしている。

先月、盛岡YMCAのリーダーたちと福島を旅してきた。南相馬、浪江、双葉、大熊、富岡を見学し、そこに生きる人びとに直接会ってお話を聞きました。福島では道路一本隔てて、こちら側は帰還困難区域、あちら側が解除という現実が今尚、存在している。「その境界の根拠は何？」と尋ねても誰も明確に答えることはできない。

「スペクトラム」は、光が分光することという意味から転じて「意見・現象・症状などがあいまいな境界を持ちながら連続していること」を指すという。僕たちが今生きる社会は本来、おそろしく曖昧なものである「違い」に対して人間の尺度で基準や境界を引かざるを得ないことから生ずる、さまざまな困難や、争い、生きづらさに満ちている。

未来を切り開く「生きる力」とは、こうした複雑さ、曖昧さに耐え、そこから新しい価値を生み出す力のように思えてならない。

「もはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにいて一つだからです。」

(ガラテヤの信徒への手紙3章28節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

インドでビリケン・マックスが考えた⑤

カニャクマリは、今までの都市と違い、のどかな田舎といったような風景が広がる場所でした。mr.スレッシュのお母さんのお家を拠点に、今までよりのんびりと過ごすことができました。カニャクマリでは、マザーテレサランチを訪れました。マザーテレサランチでは、精神障がいや身体障がいを持った方々とブラザーたちが住んでいます。ブラザーたちは聖書の教えを真髄に、毎日serviceとprayを繰り返す生活をしているそうです。私は、ここで宗教の凄さと怖さを同時に感じました。宗教を信仰していると、心の中に強い味方がつくようなものか、漠然と思っていた中で、自分の生活までを捧げて、宗教を信仰している彼らのようには私はなれないと感じました。同時に、そこまでさせる宗教に対し、少し怖いなと思ってしまいました。しかし、献身的なブラザーたちのおかげで入居者達は笑顔を見せていました。

また、インドの最南端コモリン岬にも行きました。道中はカトリック系の教会が多かったです。今までヒンドゥー教の色あざやかな寺院を見てきたので、地域によって風景が、がらんと変わるんだなと改めて感じました。コモリン岬は 日が暮れており真暗で視界は良好ではなかったけれど、神聖な雰囲気を感じました。コモリン岬の近くのガンジーミュージアムで、頑張って日本語を話していると思いきや突然お金を求めてくるおじさんに遭遇したり、屋台がたくさん出ているお祭りを満喫したりしました。

他にも、カニャクマリYMCA・マルタダムYMCAにも行きました。ここでのYMCAは、地域の発展を支えているようでした。養蜂の技術はあったものの 製品化して売る技術がなかった地に、製品化の工程、またその

工程で必要となる道具の作り方までを教えて、地域を発展させたようでした。政府よりもYMCAが先に始め、政府に認められたとか...

カニャクマリではゆったりとした時間を過ごすことができたので、聖書研究や移動中での時間で、キャンパー同士の絆も深まったのではないかと思います。その後、Mr.スレッシュのお母さんとお別れて、トリッチーへと移動しました。トリッチーの拠点となる、セントボンファス・アンバナムという孤児院に到着したのは21:30。翌朝6:15からお祈りねと告げられ、まだこの孤児院の規模を知らずに、就寝したのです。

岩手大学4年 尾河芽生(ビリケンリーダー)



カニャクマリのマザーテレサランチにて

感謝

◎2019年9月27日現在 敬称略

●維持会員

伊藤真太郎、伊藤愛美、晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、花田瞳二戸貞文、鶴丹谷三代、中島敬泰、家村知佳、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、増田隆、川坂保宏、伊藤信彦、大関靖二、南原良哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、高瀬稔彦、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、飯島隆輔、林辰也、魚住恵、今松桂子、熊谷大樹、森山日菜乃、森山幹大、光永尚生、北田仁則、北田アユ子、東森聡、人見晃弘、尾形裕一郎、山口貴伸、井上修三、井上優子、井上浩太郎、高橋友恵、水田賢次、澤田優美、平泉幸子、佐々木理香、藤原祐三、浅沼恵、浅沼美希、若井淳、及川茂夫、阿部深雪、上中優奈、植田一茂、松尾聡子、武田理恵子、佐藤洋一、菊地弘生、重石佳司、accomm、熊谷映希、日語教会、滝川佐渡子、浅沼誠久、高橋奈菜、水野暢夫、濱塚秋二、濱塚れい子、濱塚有史、濱塚真美、佐藤翔、古澤伸

●寄附金

晴山浩輔、工藤悦子、今野健男、今野聖子、家村知佳、南原良哉、伊藤真一郎、伊藤みどり、田村治之、遠藤昌樹、尾張幸久、今松桂子、熊谷大樹、光永尚生、人見晃弘、及川茂夫、菊地弘生、日語教会

表紙の写真から



9月23日(祝)に開催された 第3回盛岡YMCAインターナショナル・チャリティーラン2019。台風の影響で急遽、県立大学の体育館で開催されました。リーダーたちの考えたゲーム双六で大盛り上がり。写真は、双六終了後、160名の大じゃんけん大会の様子です。

最新情報はこちらでチェックできます！「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ  : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook  : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>